

別紙 2

第 2 次小金井市芸術文化振興計画（後期）に向けて

第 2 次小金井市芸術文化振興計画（以下「計画」という。）で掲げる「みんなで誰もが芸術文化を楽しめるまちへ」という基本理念を基に、前期では 3 つの基本施策（事業）を主に取り組むこととしていたことから、前期（令和 3 年度～令和 7 年度）に実施主体（NPO 法人アートフル・アクション、公立文化施設及び小金井市）が行った事業について、進捗状況をまとめ、評価を行ったところである（別紙 1）。

前期の活動の評価と現状を踏まえ、後期（令和 8 年度～令和 12 年度）の計画推進に向けて以下のとおり提言する。

1 市内の芸術文化活動及び市民団体等の活動に係る情報収集

計画に記載されているとおり、小金井市では、市民による自発的な芸術文化活動が多い。市民一人ひとりが担い手となり、芸術文化の基盤を作っていくという目標は一定程度達成していると思われる。しかし、活動状況については調査できていないことから、市内及び市民の芸術文化活動について把握できない状況である。それぞれの活動を支えていくことが、計画に掲げる基本理念と理想像を実現させ、小金井市の芸術文化を豊かに醸成していくものだと考える。そのためには、まず現状把握が必要であることから、市内の芸術文化活動及び市民団体等の活動に係る情報収集が必要である。

2 つなぎ手、中間支援機能の重要性

公立文化施設や実施主体が行う活動によって、市民が芸術文化に参加する機会の提供や共催等により活動を支えていること等は基本施策（事業）として取り組んできた成果だと考える。前期の取組を継続するとともに、後期の取組としては、芸術文化活動の基盤を支えられる体制づくりを重点的に行うことを提案する。「芸術文化活動の基盤を支えられる体制」には、市民交流を促進する人材である、つなぎ手（コーディネーター）や中間支援機能を持つ団体の存在が重要である。市民交流を促進することで、相互作用が生まれ、活動の幅が広がることが期待できる。また、情報発信を強化することで、新たな市民参加を促すことができ、いずれも小金井市の芸術文化の土壌を豊かにしていくことができる。鍵となる人材及び団体を見つけていくためにも、前項で言及した情報収集が非常に重要となる。また、現状、合致する人材や団体がいない場合には、人材育成も視野に入れ、取り組んでいくべきと考える。

3 多主体で担う中間支援機能

芸術文化振興計画推進委員会（以下「推進委員会」という。）の役割について、計画では、「小金井市の芸術文化振興に関する協議を行うほか、連携、情報交換、調整、相談、評価を行い、小金井市の芸術文化振興を発展させるための調査・提言を行います。」と定めている。中間支援として必要な機能であるとも考えられるため、推進委員会だけで担うのではなく、実施主体を含めた様々な団体・機関との役割分担も必要であると考ええる。

小金井市の芸術文化施策振興のために、各主体が自主性を持ちながら、どのような立場でどのような機能を担うべきかについて、改めて検討する必要があると考える。